

令和3年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	1	事業区分：劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
		助成対象団体名：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 施設名：彩の国さいたま芸術劇場
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>前芸術監督蜷川幸雄のレガシーを引継ぎ、当該劇場の事業計画を担う次期芸術監督は、令和4年4月より振付家兼ダンサーの近藤良平に決定した。令和3年度は始動前の準備年という位置づけで、新しい芸術方針のもと、プロデューサーをはじめとした劇場職員が一丸となって、入念な企画コンセプトを練り上げた。</p> <p>新しいミッションは、1「世界に通用する舞台芸術を創造・提供する」、2「県民に対し、満足度の高い芸術文化活動の実践の場を提供する」、3「社会や地域の課題に対し、芸術文化活動を通じてその解決に貢献する」という3つを掲げた。</p> <p>新芸術監督のテーマは、「クロッシング」で、様々なジャンルや多彩なアーティストたちが刺激し合い、交わり合うことで新しい表現を生み出そうとしている。</p> <p>「多様な人々が行き交うオールインクルーシブな劇場」を目指し、「創造・発信」「普及啓発」「社会包摂」「人材養成」を柱とした事業が計画されており、充実している。</p> <p>ミッション、ビジョン、地域のニーズ、アウトカム、目標、指標、事業はおおむね明確であり、事業計画に必要な構成要素が有機的に関連し、当初の予定どおりに事業が推進されていることが認められる。</p> <p>（有効性）</p> <p>令和3年度要望時、指標の設定については、一部埼玉県県政調査等を活用しており、発現に至る因果関係が特定困難であったため、ヒアリングを通じて指標の再設定を行った。それを踏まえ改めて、ミッションから事業計画までの関連を整理し、アウトカム発現の道筋が明らかになった。</p> <p>3つのアウトカムには5つの目標が掲げられ、そのうち、3つの目標「次代を担う芸術家・舞台芸術の担い手の育成」「多様な人々が参加できる舞台表現活動の推進」「バリアフリーの推進による干涉・体験機会の拡大」については、達成されていた。</p> <p>一方、目標「トップクラスの舞台芸術作品の創作・発信」では、7事業のうち3事業が新型コロナウイルス感染症拡大により中止となり、県外からの来場者比率は56.1%（目標比率65%）で目標値を下回った。また、目標「多様な世代の舞台芸術へのすそ野拡大」では、子育て世代及び高齢者の鑑賞者の合計の割合が、43%にとどまり、目標値を達成することができなかった。ただし、子供の鑑賞者の割合は、34.6%で目標値を上回った。</p> <p>課題とされていた指標が改善され、指標の初期設定における根拠も明確となったため、アウトカムの発現が、十分に期待できる。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画どおり実施されており、事業期間は適切であったと認められる。</p> <p>また、事業費については、要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、一部の費</p>		

目に増減があったものの、ほぼ計画どおり執行されており、適切であったと認められる。

（創造性）

「さいたまゴールド・シアター最終公演『水の駅』」では、俳優が身体的な衰えをさらけ出し、ありのままの人物を演じることで、人間の内面に潜む心の叫びや鬱屈などが舞台空間を埋め尽くし、終始、緊張感のある舞台であった。感染症対策を鑑み、高齢者集団の特性を生かした企画選定は功を奏し、全体を取り仕切ったプロデューサーの手腕は、優れており、独創性が認められる。また、舞台下手に仮花道を設営するなど、最終公演に相応しい俳優たちの「人生の花道」を飾るしつらえにデザインされており、古典芸能の演出手法を駆使した演出は優れていた。前芸術監督の肝いりでスタートした他に類を見ない高齢者演劇集団は、当該劇場のシンボリックな存在として先駆的な役割を果たし先導性が認められた。

「コンドルズ埼玉公演2021新作『Free as a Bird』」は、各シーンがわかりやすく、ユーモアにあふれた構成で、コンテンポラリーダンスの多様性に迫り、十分な同時代性をも有していた公演として優れていた。また、ダンスに馴染みのない地域住民やダンス未経験者からの観客の掘り起こしに努めていたことも評価でき、新規性と独創性が認められる。

「パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム」は、病院やリハビリテーションなどの医療・福祉機関ではない劇場という創造現場からプログラムを提供していることや、コロナ禍において遠隔地のリモート参加を可能にしたことで全国からの参加を可能にした点、33人の参加者のうち、新規参加者が8名に上るなど、本活動の可能性を広げた。

以上のことより、事業内容が、独創性、新規性、先導性等に優れており、事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっていると認められる。

（持続性）

人事面では、既に有期契約職員のうち無期契約への転換を希望した全員を無期契約化しており、専門人材の育成・確保に努めている。

財源では、埼玉県から100%の出資を受けた指定管理料、及び民間助成金や協賛金等の獲得により安定的な劇場経営を行っている。近年はサポーター企業数が横ばいの状況が続いており、新規会員の獲得に向けたさらなる資金調達活動が求められる。

広報・マーケティングでは、新芸術監督の就任により、広報展開をこれまで以上に強化する観点から、以前より稼働していた各ジャンルのTwitterアカウントのみならず、総合アカウントを令和3年度より新たに設置し、劇場全体の情報発信に努めている。動画配信において、劇場のイメージ向上を図る映像コンテンツとしてブランドムービーを制作し、YouTube上で公開することで知名度の上に努めている。

これらの実施にあたっては、各部署から選抜された横断的な人材からなる広報チームを立ち上げ、戦略的な展開を可能にする体制を整えている。

以上のことから、事業計画を通じて組織活動が持続的に発展し、持続的なアウトカムの発現・定着が期待できる。

（総 評）

前芸術監督が企画したシェイクスピアシリーズやゴールド・シアターにおいて、国内外に名をはせた当該劇場が、新芸術監督を迎え、新しい芸術方針のもと歩み始めた。

令和4年10月より17か月間の大規模改修に入り拠点は埼玉会館に移るが、当該劇場で制作された作品の全国展開や、地域に点在する公立劇場との多様な連携を模索することを期待する。

また、ミッションに掲げた「世界に通用する舞台芸術を創造・提供する」とことと目標に掲げた「多様な人々が参加できる舞台表現活動」の実現に向け、新しい発想で地域とつながる県立劇場の社会的役割を十二分に果たすことを期待したい。

中間評価結果

(可否のいずれかに○を附す)

継続

 可

否